

# 青年部・沖縄平和行進に参加して これが団結と実感！

朽木協鐵分会 河村 崇人

沖縄平和行進の時期になると、分会の先輩から「良い経験になるから、1度は参加した方がいい」と聞いていました。あまり物事に関心を持たない自分でも、本当に感じるものがあるのだろうかと不安もありましたが、こうして参加してみると考えたり、感じることも多く貴重な経験になりました。

5月16日～5月20日の5日間の日程で参加し、1日目は全国結団式から始まり、三単産結団式、その後平和学習会を開いて頂きました。色々な沖縄問題について話され勉強になりました。



2日目からいよいよ行進が始まり、南部・戦跡コース(約45キロ)を歩きました。沖縄地方は梅雨で雨の行進になると予想されていましたが、運良く行進時には雨は止んでいました。行進1日目、3日目はレンジャーをさせて頂きました。自分も含め皆慣れない様子でしたが、徐々に声も出るようになりレンジャー同士での親近感も湧いてきました。初めて会う人でも皆「頑張ろうや」の言葉も必要ないぐらい、1人ひとりが真剣に取り組んでいて、すごく良い連帯感を味わえました。大変だったです

が、やりがいもありました。

行進2日目は、行進団の中でずっと声を出してシュプレヒコールを叫んでいました。声をずっと出して引っ張っている人の姿を見て、自分も引っ張る側になろうと思いました。予想以上の暑さと日差しで、長い道のりを歩く事がどれだけ過酷であるかが身に染みてわかりました。足を引きずりながらも歩いている人もいたり、年配の人が歩いている姿を見ると、頑張ろうと気持ちになれました。

行進で特に印象が強かったのが右翼団体の妨害で、聞いた話によると今までで一番数が多かったそうです。初めは面白半分で見えていましたが、しつこさのあまり徐々に怒りさえ感じました。



沖縄タイムスの記事によれば、沖縄平和行進には3日間で累計3590人が参加したそうです。全国から多くの団体が結集し、皆が同じ目的を持って行進している姿を見て「これが団結か!」と実感しました。実際に参加しないと分からない、言葉では表現し難い事だと思いました。

3日目の行進の夜には交流会が開かれ、真剣に話す人、笑いをと

る人、場の空気を盛り上げる人、色々な人と交流を持てて楽しく過ごせました。

5月20日の解散後、2014年から辺野古新基地建設の反対運動をされている「ヘリ基地反対協」仲宗根氏に現地を案内して頂きました。私はこのような活動をされている方は、やはり言葉に重みがあり、芯がしっかりしていると感じました。

ゲート前に座り込み工事車両を止めようとする約50名の人が、機動隊に強制排除されている光景を目の当たりにし、「同じ日本なのに沖縄では大きな問題がある」と、いろいろ考えさせられ複雑な気持ちになりました。また1日に朝、昼、夕方の計3回工事車両の出入りがあり、朝には沖縄平和行進から流れて来た人も多く約300名の人びとが集まり、工事車両を阻止できたそうです。

数の力の凄さを知った反面、なぜもっと人が集まらないのかと疑問を抱きました。自分や家族、身近な人の問題なら動こうとする人は多いはず。しかし、沖縄の人口145万人に比べると余りにも少なく、沖縄には関心がある人が少ないのかと感じました。仲宗根氏は「現状基地建設を止める事は難しく、今は遅らせる事しかできない」と言っていました。難しい話ですが、他者の問題を自分の問題として捉える事ができる人が増えれば少しは平和になるのではないかと思います。

最後になりますが、沖縄についてもっと知ろうと思えた5日間になりました。三単産、沖縄地本の方々、仲宗根さんありがとうございました。いろいろ学び、感じた事をこれからの活動に活かして頑張ります。

## 南大阪平和人権連帯会議主催

# 沖縄現地学習会に参加して

執行部 関谷 和人

6月7日～9日の3日間、南大阪平和人権連帯会議の沖縄現地学習会に、各団体合わせて21名で参加しました。

初日の7日は、那覇空港に到着後、名護市辺野古の新基地建設現場に向かいました。瀬高の浜から埋め立て地を見学した後、海岸のテント村で埋め立ての状況などの説明を受け、キャンプシュワブとの境界地まで行きました。地盤が緩く地下90mまで杭打ちをしなくてはいけないそうですが、現状の技術では70mまでしか杭打ちできないのに、国は70mで大丈夫だと工事を続けています。こんないい加減な基地建設を許してはいけないと思いました。

その後、読谷村役場へ行き、憲法9条の碑を見ながら、基地の中に役場を作るなどをして、徐々に基地が返還されていった話を聞きました。

## ガマでの悲劇

2日目は最初に道の駅嘉手納へ行き、屋上から米軍嘉手納基地を見学しながら、嘉手納基地爆音訴訟原告団の平良さんから説明を受けました。基地の休みの日で訓練してなかったのは残念でした。

次に読谷村のチビチリガマへ行きました。遺族会の知花さんが来

てくださり、なぜチビチリガマでは住民の集団自決が行われたのか話を聞きました。以前、来たときはガマの中に入れませんでした。特別にガマの中に入れてくれました。ガマの中は遺骨収集されているため思っていたより片付いていましたが、当時のまま残されている場所もありました。遺骨や錆びた包丁や薬品の瓶が散乱していて当時の悲惨さが伝わってきました。

昼からは嘉数高地へ行き展望台から米軍普天間基地を見学しました。基地の周りに住宅が密集しているのが一望でき、危険な状態なのが再認識できました。

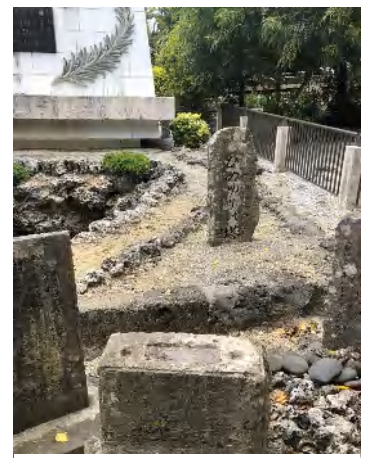
## 戦争などと軽く使えない

最後に対馬丸記念館に行きました。対馬丸は学童集団疎開の子供たちを乗せて潜水艦の魚雷攻撃で沈没したまま、現在も引き揚げら



▲ 対馬丸記念館

れていません。現在の技術なら引き揚げは可能なはずなのに、未だに引き揚げられないのは何故なんでしょうか?という言葉に同じ気持ちでした。



▲ ひめゆりの塔

最終日は糸数のアブチラガマ、摩文仁の丘の平和の礎、ひめゆりの塔と資料館、<sup>こんばく</sup>魂魄の塔と米須海岸と悲惨な戦争の爪痕を見て回りました。それぞれの場所で話を聞き、二度と戦争をしてはいけないと思いました。

## 平和とは・・・

また、米軍兵士が事件・事故を起こしても、日米地位協定などにより罪も問われず帰国していきま。このような理不尽なことをなくすためにも、米軍基地はなくさないといけないでしょう。戦後74年が経ちましたが、未だに不発弾が見つかり、遺骨が出てくる沖縄。改めて「平和とは」と考えさせられました。

最後に、バス移動の間も沖縄戦当時の話を聞かせてもらうなど、他では知ることのできない貴重な体験ができました。ありがとうございました。